

発行所

日本赤十字
新労働組合連合会
略称「日赤新労」

東京都港区西新橋3 14 5
Tel 東京434 7080

発行責任者

山景 勇

日赤新労ニユース

綱領

1. 吾々は、社会正義に立脚した良識ある労働運動を通じて吾々の権利を守り、生活の安定と向上をはかる。
2. 吾々は、常に暴力と独裁を排し自由にして明朗なる民主的労働組合としての健全なる発展を期する。
3. 吾々は、赤十字の民主化と近代化を促進することによつて、その人道的任務の達成に寄与する。

昭和43年9月13日午後1時より

9月15日正午まで

第6回学習会

会場 大津市 滋賀県青年会館



学習会会場風景

大津市は滋賀県琵琶湖最南部の県庁所在地で人口約十五万の都市である。古くは近江の大津京(近江朝廷)がおかれ江戸時代は本多氏五万石の城下町であった。そして現在の市域には瀬田川流にのぞむ石山寺・芭蕉の幻住庵等があり昔をしのぶ名所旧跡が、そこかしこに見られる。

新第六回学習会はこの静かなた大津市をみせる大津市において全国各地より参集した単組の同志と本部役員計五十余名をもちつて三日間に亘り開かれた。

開場の滋賀県青年会館は瀬田・石山の静寂に架けられている延長二六〇米の唐橋・中ノ島にあり、連日意欲的な学習態度に講師も深い感銘を受けたようであった。

- 参加者
- 高橋千代子(八戸日赤)
 - 大川 愷(〃)
 - 吉田 栄司(盛岡日赤)
 - 広田 幸子(〃)
 - 平野 洋子(盛岡日赤)
 - 横田 謙二(水戸日赤)
 - 大友 勝利(〃)
 - 川島 勝士郎(足利日赤)
 - 竹 森 繁夫(〃)
 - 斎藤 アツマ(大田原日赤)
 - 早川 清也(前橋日赤)
 - 古 沢 都(〃)
 - 小沼 悦子(〃)
 - 浜中 周平(中央病院)
 - 江口 長市(〃)
 - 平井 包十(浜松日赤)
 - 古橋 勝也(〃)
 - 山岡 久子(〃)
 - 都 築 秀(〃)
 - 宮原 義彦(名二日赤)
 - 飯塚 保央(〃)
 - 富田 金光(〃)
 - 山本 昭二(名二日赤)
 - 岡田 明夫(〃)
 - 福永 貞雄(鳥取日赤)
 - 岡崎 静子(〃)
 - 油上 和男(岡山日赤)
 - 徳田 剛(〃)

徳田 久子(〃)
井野 知法子(今津日赤)
猿渡 悠子(〃)
横田 富雄(長崎原爆病院)
川島 俊隆(〃)
福田 栄子(〃)
井上 嘉弘(唐津日赤)
小出 友久(愛知血液センター)
数井 紀彦(東京都支部)

小川教授講演要旨

あるからであり、数字の上の魔術に外ならない。

①「新しい型の貧乏」
現在の日本人の生活はそのパラノスを崩しているようだ。大抵の家庭にはテレビがあり、電気洗濯機、冷蔵庫があるが、子供の勉強する机がないというような状況であり、決してよくなるべき現象ではない。私はこれを呼んで「新しい型の貧乏」と呼ぶ。

② 医療制度の改革

わが国の医療制度は本格的に改善の必要があると思う。何と云っても一番の欠陥は、医療点数方式にある。極端に引かれば、死なない程度に長引かせるということのできる。現在の医療点数制度はこれを欧米などで採っている、予防衛生に重きを置いた、人頭割登録制に切り替えて見てはどうか、最初が不合理に感ぜられることもあろうが、欧米などのように簡単に登録替が出来るような仕組みにすれば、案外好成绩をあげられるのではないか。

③ 賃金体系の変化
産業界は今や技術革新の時代に突入した。わが国が長年に亘つて探つて来た年功型賃金は、好むと好まざるとを問わず、押し寄せる技術革新の波に乗って、職務給、能率給の型に移行しつゝ、あり「休まず、遅れず、働かず」というような安易な考え方を捨て去り、同一労働、同一賃金の原則に沿つて若年層、中高年層共に協力、理解し合つて前進すべきである。

感想文集録に当つて

感想文を寄せられた三十九名の方々のご意見、ご要望等を一一つ拝見し、これを検討して見ましたところ、次のような総合結果が得られました。

① 学習会の効果について
大会、中央委員会等、組合にとつて勿論必要であるが、常々幹部役員のもとに活動して、学習会を一般組合員にとつて、学習会こそは自由にあらゆる面で話し合い、デスカッションができる場であり、講演によつて知識を広め、勉強もできる最良の場でもあるので、計画的に継続開催して欲しいこと。

② 講演について
何と云つても、学習会の主目標は講演にあるのであり、今回の小川教授の講演は、内容と云い、話し

わが国の医療制度は本格的に改善の必要があると思う。何と云っても一番の欠陥は、医療点数方式にある。極端に引かれば、死なない程度に長引かせるということのできる。現在の医療点数制度はこれを欧米などで採っている、予防衛生に重きを置いた、人頭割登録制に切り替えて見てはどうか、最初が不合理に感ぜられることもあろうが、欧米などのように簡単に登録替が出来るような仕組みにすれば、案外好成绩をあげられるのではないか。

③ 賃金体系の変化
産業界は今や技術革新の時代に突入した。わが国が長年に亘つて探つて来た年功型賃金は、好むと好まざるとを問わず、押し寄せる技術革新の波に乗って、職務給、能率給の型に移行しつゝ、あり「休まず、遅れず、働かず」というような安易な考え方を捨て去り、同一労働、同一賃金の原則に沿つて若年層、中高年層共に協力、理解し合つて前進すべきである。

感想文集録

八戸日赤 高橋千代子
あわただしく出席したのであるが参加してよかつたと思う。この学習会を機会に、これからの組合活動、更に職場の地位向上のために

八戸日赤 大川 愷
「山路来て、なにやらゆかしすみ

大田原日赤 斎藤アツト
この度の学習会出席に当つては、予め目標を立て、参加したいと思つていましたが、それを果たすことができず、白紙状態で参りました。

盛岡日赤 底田 幸子
この学習会で学び得たことは大変大きいと思ひます。これを一人でも多くの組合員に伝えたいという気持ち一杯です。若い新入の組合員に対して、その進路を誤らせないよう活動方針というふうなものを書いていただき、それからもう一ヶ月の時間について考えて欲しいというのを感じました。

盛岡日赤 平野 洋子
出席前、しごかれはしないかというふうな不安感があつたが、参加して見て全くそんな緊迫感はない。むしろ、反面、何かもの足りないよう感じさせました。安泰ムードに對し、もつと刺激がほしいという気持ちを抱きました。

た。多くの単組の方々のお話しを聞くことができ、また小川先生の講演を聴くことができ、どの程度これらに単組に生かすことが出来るか自分自身から不安で居りますが、非常に喜んで居ります。

次に私が、今回の学習会に強く感じ、また中央執行部の方々に考えて頂きたいことがあります。それは、中堅層の指導の立場にある人々もさることながら、新入組合員も右も左もわからず居る人々に対する教育を別で考慮されたい、ということでもあります。プロテクトでも出来ることも知れませんが、ご一考をお願いします。

足利日赤 竹森 茂雄

この度の学習会に出席して、参加諸氏の熱意と努力の並々ならぬものを感ぜ、自分の不熱心なことを、意欲の足りなかつたことが恥かしく感ぜられた。

小川先生の講演は、初歩の私にも多少なりと理解でき、大変有益だつたと思ひます。ただ非常にうまいので、その場だけ理解した錯覚に陥らないよう注意したいと思ひます。

足利日赤 川島勝士郎

初めて参加しましたが、結論として、大変有意義の三日間であつたと考へます。今回は中堅層の者の指定があつたが、組合意識を高揚するには、先づ初心者新入組合員に対する教育が必要と思ひ、その点を考慮されるよう、執行部の企画をお願いする次第です。

前橋日赤 早川 清也

三日間を通じて感じたことであるが、交流会にしても、討論会にしても、もつと問題を掘り下げる必要があると思ふ。

各単組の実情もちがうと思ふが、普通の会議では得られない経験的交流、教宣のあり方など、基礎的な討議をしてほしい。そのためには、五十名位の出席ならば、三内至四班に分かれて、分散形式にし、小人数の話しなども必要でないかと思ふ。とくに多くの問題をかかえて、単組の要望として出しておきたい。

水戸日赤 大友 勝利

今年の学習会の講演は、経済問題を主としたものであつたが、その中で、資金に困る点、つまり仕業即ち労働に対する対価というところが痛切に感じました。立派な仕事者がハツキリしていない。単組に

い、実力を身につけたい、そうではないとロク／＼食べていけないという痛感を感じた次第です。

中央病院 江口 長市

何といつても学習会の主目標は講演にあると思ふのであるが、講演内容の如何に拘らず、その中から新勢のあり方というふうなものを学びとる何ものかがあつてほしいというところであり、その点習者も足りないと思ふ。なお出席者の層であるが、学習会でなく、幹部育成会とした方がよいという人もあり、考えて頂きたいと思ふ次第です。

中央病院 浜中 周平

学習会初参加、本当の意味で一人歩きできない自分ですが、各単組のぞみ、本部の人達と話し合ふ場を、かかるといふことが、小川先生の講演では、数多くのものを身につけることができ、社会保険や医療費問題等政治運動が伴うことについてどうしたらよいか、この上は社会保険、医療費問題についても直接賃上げにつながる点も、思ふが、組合としてどうしたらよいか、むかしし問題であるが、方針を示してほしい気がする。

水戸日赤 横田 謙二

第一日、交流会における各単組の問題点が討議され、有意義であつた。

第二日、本学習会のサワリの所であるが、一言にして云えば、内容的にも、話術面でも、申し分のない出来ばえであり、数多くの教を頂いた事を感謝する。

第三日、討論会も主眼に合つた進行に對する書き真がなかつたために、愕然としたものに終つた感がある。このようなかやりの場合は、会の進行に技術的に卓越した座長があつてこそ、円滑に実のある会が運ばれることを附言したい。

水戸日赤 大友 勝利

今年の学習会の講演は、経済問題を主としたものであつたが、その中で、資金に困る点、つまり仕業即ち労働に対する対価というところが痛切に感じました。立派な仕事者がハツキリしていない。単組に

水戸日赤 大友 勝利

今年の学習会の講演は、経済問題を主としたものであつたが、その中で、資金に困る点、つまり仕業即ち労働に対する対価というところが痛切に感じました。立派な仕事者がハツキリしていない。単組に

も政治的なものに通ずると云い切れるものか。病院の職員は、打撃を目的とするのか、あくまでも福利厚生だけに終るのか、具体的に目標を示してもらいたい。

東京支部 鶴岡 義雄

小川先生の講演に於ける講演は、一般的に価値あるものと思はれるが、日赤に對するつながらをもつともつと考へてほしい。現在のところ、組合員が少ないことなどから組合運動も低調となり、幹部育成会とした方がよいという人もあり、考えて頂きたいと思ふ次第です。

浜松日赤 平井 包十

純然たる支部関係は東京支部だけである。期末手当の問題などをとりあげても、本通達その儘を受ければならぬ実状にある。少強弱の単組のあり方に関心をもちたいと思ひます。

浜松日赤 都築 秀

先ず、他の単組との交流の中で、単組の活動が、非常に貧弱で、痛感させられた。講演につきましても、時代の流れにマッチした、広い見地から考へるべき示唆を与えられ、また健全な組合活動の方向づけを指導して頂いたこと、これを機会に、当単組に痛つたこと、長い目で何等かの形で、微力ながら、組合活動に寄与したいと思ひます。

浜松日赤 古橋 勝也

職場に勤務して約七年になりましたが、組合活動そのものに首を突入れたのは、今年が初めてで、今度の学習会もある程度期待しておりました。小川先生の講演の中で、組合に政治活動を持ち込むのは、ひいては分裂を招く、というふうなことを云つておられましたが、私もこの点どういふのが、常識としていたことであり、心が持たれた次第です。私は二年程前まで、浜松労音の一員として、労音活動にある程度携つておりました。音楽の中に政治を持ち込むことに疑問を感じ、やめて終りました。は芸術であつても必ず思想があらわれます。しかしその思想は必ずし

名一日赤 宮原 義彦

今回の学習会は、大阪市大の小川経済学教授が、我が国における経済状況、就中労働状況、賃金問題、物価問題並びに我が国の医療保障制度の点検方式による診療報酬支払制度と比較して、英国の医療保障制度、いわゆる人頭方式の国

民医療を指摘され、更に普及して日本の点数方式のものを、制度上の欠陥と、矛盾を指摘し、医療を産業政策として取り上げ、今や労使双方が、相互信頼の中で、合理的な経営を行なわれ、健全な体制を築くために、組合としてあるべき示唆されたのであるが、約六時間の講演の中に、学ぶべきことの多かつたことは有意義に思つておられます。

名一日赤 飯塚 保夫

日赤新勢第六回目の学習会にはじめて参加しましたが、第一日目の自己紹介から、第二日目の大阪市立大学の小川教授の講演、そして第三日目の本部役員との懇談と、きつりつまつた日程の中に、非常に有意義な学習活動で、今後大いに活発化する予感を感じました。日赤新勢が、今後大いに活発化する予感を感じました。日赤新勢が、今後大いに活発化する予感を感じました。

名一日赤 富田 金光

第六回学習会の企画、計画実施に当たって、いただいた本部執行部の方々始め、地元世話役、設備単組の皆々様に厚く感謝致します。

○全体の企画構成については、大変結構なプログラムと思ひますが、少しばかりの足りないと思ひますが、今少し気軽に對話のできる雰囲気を作るため、各単組出席者、本部執行部と話し合ひがなされて行なつたと思ひます。日程の中には第一日目の交流会、第二日目の討論会、執行部との懇談もあつたのですが、やはり前もつて、これらの場を有意義なものとするための方法を検討されたいと思ひます。

名一日赤 山本 昭治

今まで全単組への関心も、始めて学習会に参加させて頂き、各単組の方々の意見を聞き、大変勉強になったと思ひます。経済労働問題に詳しく講師を招いたの講演を聞くことができて、また先生のユーモラスで且つその中に賃金問題など専門的な事を、何もわからぬ私に教えたことは、大変有意義でした。これからは、単組への関心、自分自身の教宣活動のあり方を考えて見たいと思ひます。

愛知県赤十字 小出 友久

執行委員長の挨拶にありましたように、日赤新勢の教育活動強化というのを主体とするならば、執行部の抱負というものを明らかにし、各単組はどのような立場から、この事情にあつたかを、討論会、執行部との懇談を望み、執行部は各単組との希望をとりまとめ、新勢の歩みというものを考えて、いただきたくつた。

また学習内容については、講師の小川先生より、一般的講話を聞いたわけですが、今一度講師の先生に質疑応答が許されるならば、小川先生にも日赤の実情をもつと前もつて知つて頂き、各単組の具体的な活動方針となるような方向で行なつて頂きたいと思ひます。学習会の構成は全体的には良かったが、日赤に即した具体的な方法が、あつたならば、組合意識の高揚、教育活動の強化により効果的ではなかつたでしょうか。以上簡単に方法を検討されたいと思ひます。

愛知県赤十字 小出 友久

執行委員長の挨拶にありましたように、日赤新勢の教育活動強化というのを主体とするならば、執行部の抱負というものを明らかにし、各単組はどのような立場から、この事情にあつたかを、討論会、執行部との懇談を望み、執行部は各単組との希望をとりまとめ、新勢の歩みというものを考えて、いただきたくつた。

また学習内容については、講師の小川先生より、一般的講話を聞いたわけですが、今一度講師の先生に質疑応答が許されるならば、小川先生にも日赤の実情をもつと前もつて知つて頂き、各単組の具体的な活動方針となるような方向で行なつて頂きたいと思ひます。学習会の構成は全体的には良かったが、日赤に即した具体的な方法が、あつたならば、組合意識の高揚、教育活動の強化により効果的ではなかつたでしょうか。以上簡単に方法を検討されたいと思ひます。

名二日赤 岡田 明夫
今日の学習会に参加し、一番に感じたことは、組合のあり方について、私自身今まで以上に考へなければならぬということ、すなわち、学習会というものは、我々個々の意識高揚には大変役立つものと信じます。私達はかかる機会ある毎に之により少しでも知能を広め、微力ながら努力して行きたいと感じました。

岡山日赤 池上 和男
先ず、執行部の従来に増した務力と、地元大津日赤単組の方々に厚く御礼を申し上げます。近年特にめざましい変動をみせている労働情勢の中にあつて、労働者として、労働組合としての考え、判断等について年々開催される学習会により、現状における労働組合のあり方、また将来の方針等について、学習会において得た知識を参考に出来たことを参加者として感謝する。

小川教授の講演内容は、日本経済の二重構造の存在する中にあつて、我々の労働条件の内、重要な事柄である賃金問題について、実際に目で見、耳で聞いた欧米におけるものと比較して、日本における労働者の、労働組合のこれからの賃金形態を、あらゆる面からわかりやすく講演され、まだまだ受講の時間がほしい位であつた。今回の学習会で得たものを、単組の教育活動に充分活用し、単組発展に、新労の発展に役立てたいと思つておりました。

岡山日赤 徳田 久子
講義は大変おもしろく、全然退屈しませんでした。現在岡山単組がかかっている、重大問題である年金、定年制、賃金等、アウトラインはわかりました。今後学習研究する上に参考になりました。教育部の活動はかあるべきだといふ具体的講義を期待していたのですが、その点は非常に残念です。短時間で無理だったのかも知れませんが、もう半日位時間を取つて頂きたかつたと思ひます。交流会の時間も、もう少し長く各単組の事情が話し合えたらと思ひます(例えば夕食後一、二時間位計画すると)。交流会では非常に参考になる他単組の発言がありました。場所、環境、時期は大変よかつたと思ひます。大津の皆

様大変お世話になりました。

鳥取日赤 福永 貞雄
第一日、自己紹介で、各自単組名及び氏名を言われるが、その時限りでついで忘れてしまうので、出席者全員会議終了まで、単組名及び名前を記した名札を胸に

に於ては、今少し物足りないように感じました。
第三日、討論会については、進め方について予め計画立案して置く必要があり、検討の要があると思ひました。
鳥取日赤 岡崎 静子



学習会参加全員記念撮影

で私達組合にだけかけられた多くの問題、どれとて欠かしてはならないものである。私は特に職務給と職能給の問題について考えさせられた。現在のシステムでは、この方法はとり入れられる事は、非常に困難な事であるが、若年層と高年層の給与、バリバリ働く若いナ

その働きを正しく見、判断して行くの機械でもない限り、それは無理だろうという結論に達した。もう一つ、学習会に出席する組合員の選考について、もつと下部層を中心とした、要するに組合意識の高揚を、一般の組合員に知らせる様な空気の会としてほしいと思ひます。

来て来ましたが、参加して皆さんの考えを聞く事ができ、組合に対する認識を少しでも深めたことは感謝に堪えません。それに小川先生のような方に、色々とお話を聞くことができた大変有益な時間と思ひます。できればもう少し時間を増して頂けたらと感じました。

長崎原爆病院 川勝 俊隆
学習会に参加したのは、昨年引き続き二回目ですが、昨年は昨年なりに、初めての組合員として吸収するところがありました。今年には昨年とは内容の違った講演でしたが、私としても組合活動を始めて二年目になり、一応名目上は指導的立場にある関係上、今後の組合活動を推進して行く上に、大いに得る所があつたと思ひます。それは講演内容の「近代労働者のあり方」の中に、一方的な組合活動だけでは、より理想的な活動は出来ない、という点に、私なりに考えさせられたことであります。私共としても、今後の組合活動をより強力なものにするには、幹部と組合員とが、がっちり結び、今までの組合活動のあり方に対し反省し、対処していかなければならぬと、考えを新たにしました次第です。

講演を聞き、意見を述べあい、他の職場の事情を知ること自体は親睦を深めるということそれ自体大いに意義あることと感じた次第であります。

福岡県支部 宮本 玉枝
今回の学習会には中堅クラスの参加となつていました。私のような全くの初心者も参加することになつて、申し訳ないと思つて居ります。それでも鬼に角出させて頂き、色々勉強出来、私なりに一歩前進できたと思ひます。福岡ではまだ組合意識が低いように感じます。組合の幹部の方々に積極的に指導して頂きたいと思ひます。

中堅クラスで、教育を担当している者ということで出席したのですが、初日の自己紹介で「組合活動は初めて何もわからない」という発言の多いのに驚くと共に、各単組における事情もさることながら、学習会の主旨が不徹底な感じではなかつたか、ということを感じました。

二日目の小川講師の講演は、教育活動をやめるのに直接の効果が期待して来た者には、意外であつたと思ひます。先進単組の専従の方でも頼んでやつた方が実効的な学習会になつたのではないのでしょうか。しかし、それはそれとして、私共地方の者にとりましては、めづりに聞かれない大学教授の講演をたつぷり聞く機会を得ましたことは非常に有意義でありました。

初日の交流会、三日目の討論会や日出席者のレベルが違つたため今一つ盛り上りに欠けていた点は否定できないと思ひます。限られた時間でやらなければならぬのだから、議題は二つか三つに絞つて、そのことについて討議をするというやり方ではなく、今度の場合のように、中途半端になる危険性が、充分にあると思われたいので、今後充分に検討されることを望む。環境の点は申し分ないと思ひますが、ベトナムというのはいま日本人にとつて、本当の休息ができませんでした。

今津日赤 井野畑 法子
当院の執行委員から、学習会参加を云われ、随分とまどいました。が、雰囲気だけでも味つて来たいと思ひ、本部の執行委員の方々に、それに全国の単組出席者にこの目でお会いして、意見らしい意見も述べられませんでした。何となく力強く感じたというのが実感であります。単組内では色々派山の悩みを持つておられますが、これからは一組合員として、自覚を持つていかなばならないと思つておられます。少なからずこの学習会をきっかけになつたことが、私にとつて今度の学習会の一大収穫だつたと思ひます。

長崎原爆病院 横田 富雄
講演内容について、非常に有意義な講演をしていただき、勉強になつたと思ひます。しかし、少々疑問の点が出て参りました。というのは、我が国における経済状況等四点程ありますが、これをもう少し具体的に説明書きにして下されば、中堅クラス、新人など、色々分らない人も、講演内容と、説明書を比較して、来る年程の学習会には、単なる項目でなく、説明書きして欲しいと感じました。

長崎原爆病院 福田 栄子
今年始めて代議員に推せんされた病院の悩み、組合幹部のご苦労等を、今頃やつとわかりかけてきた所、今回の学習会に参加できたことは、本当に私自身大変に勉強になり、単組に帰りましたも、他の組合員、また非組合員にも教育して、組合員の拡充にも当たりたいと思ひます。

次にこの学習会で、あらためて感じたことは、小川講師の言われた「同一労働 同一賃金」ということで、頭から男であるから、女であるからという男女差を廃止し男女を問わず、能力、実績による賃金の支給化が、一日も早く日本に来るよう望むと共に、管理者側の女性に対する職場の拡張と、当然それに伴う保育所、託児所の増設完備を行つて貰いたいと思ひます。なおこの度のように、全国の単組組合員が同じ場所に集まり、

つてはどうかと思ひました。第二日、講演の議題は異論なく、講師の話も上手で退屈するよう思ひます。内容については、一般的な生業工場中心に話されたので、赤十字を振り返つて考えた時、特殊の環境である施設

学習会出席が決つた時、私は「忙中閑有」の字句がフット頭の中にひらめいた。毎日人命をあかせる看護の職から、二、三日でも離れよ、組合の勉強にだけ没頭すればよいのだからか、...がやはりそうはいかなかつたようである。小川先生の講演を聞き、その中

スは、一寸暇ができる椅子に座りながらの中年のナースに対する感情等を考えれば何とかしなくてはならぬ、複雑なむづかしい問題と見えます。生活のための賃金、これは人間には必須のものであり、働けばそれに対する正当な賃金を権利として当然受けるのであるが



ベア団交開催

九月九日 於本社

出席者

組合側

川島執行委員長
川田副執行委員長
堀江 〃
山景書記長

川越執行委員
吉村執行委員
竹洞 〃

有社側

宮島人事部長
瀬戸総務部長
北村衛生部長
永谷振興部長

市村茨城県支部事務局長
渡辺成田病院長
中田中央病院長
関根管理課長
調所人事課長

ベースアップについて

(組合側)

約束の開催時間に遅れたのはどういふ事情か、時間は守ってほしい。

(本社側)

おくれたことは兎に角悪いので今後気をつける。

(組合側)

ベア問題についてその後の進展状況を聞きたい。

(本社側)

日赤と雖も企業体には異なるので、その経営内容を調査中であり、その結果を見なくては何とも云えない。

(組合側)

この前は政府が決定した上で考へることであつたが、閣議は決定したではないか、また社長に会つた時に社長は政府がどうであれ、日赤は日赤として独自に考へると言つたこと等から、ある程度の見通しはできている筈である。

ならぬ。不誠意と云われてもやむを得ない。

〇忌服について

(組合側)

その後検討されている筈の忌服の問題はどうなつたか。

(本社側)

さきに提出した本提案は、全般的に見てバランスがとれていて思ふので、之を直直する意志はないので組合としても認めてほしい。

(組合側)

機関に諮つた上回答する。

〇請手当について

(本社側)

九月までのものが必要であるが、まだ三分の二程度より集つていない。

(組合側)

経営状態を知るための資料は、つ頭までに集計できるか。

(本社側)

今迄の事情から見て十月一杯はかかると思ふ。或はそれ以上かかるかも知れぬ。

(組合側)

昨年のベア実施受諾の四条件の中で、本社は「最悪の場合でも公務員と同時同率にするよう最善の努力する」ということを約束しているのを知つてゐるか。

(本社側)

同時同率にするなど云つたことは全く関知しない。それは事実無根である。公務員給与に接近するよう努力すると云つたまでである。

(組合側)

四条件の問題は記録を繰つて見ればわかる。ベア問題では今迄何回か交渉を行なつており、データの促進の件も話し合つてゐるので、今更三分の二程度より集つていないというのは本社の誠意が認められない。

(本社側)

本社としては一生懸命努力してゐるつもりだ、これ以上は何とも

代表中央委員会議開催

— 43. 9. 15 —

— 於 滋 賀 県 青 年 会 館 —

〇出席者

第一プロツク

吉田栄司(盛岡日赤)

第二プロツク

松村 勝(足利日赤)

第三プロツク

山田 正(名一日赤)

第五プロツク

池上和男(岡山日赤)

とした。具体方策については、資料云々にこだわらず、大体的見通はある筈なので、この点を院長連盟、局長会等とタイアップするという方向で進めるのが効果的でないかという案も出た。その他色々な戦術も出されたが、代表中央委員に一任するという事に意見がまとまつた次第である。



第六プロツク

川勝俊隆(長崎原爆)

〇本年度ベースアップについて

団交開催を、資料蒐集遅延等にかませて、巧に回避している本社の壁をいかにして突き破るかについて討議を行い、硬軟両方面の意見が出たが、代表中央委員は、種々具体策について統一をはかるこ

〇機関決定事項の協力について

代表中央委員に、責任の一端を持つて貰い、できるだけ効力発揮に努力されたいこと。

〇声明文の発送について

次の声明文を、日赤全職員に発送しPRに努めること。

「給与改訂に当り

日赤全職員に訴える」

御承知のとおり、日赤給与は、人事院勧告どおり行われていない公務員給与より更に毎年おくれで実施されており、吾々職員は異常ともいへば物価高の中、極めて窮乏した生活を続けて来ましたが、もうこれ以上我慢できな所まで追い詰められています。働く者の生活を守り、之を安定せしめるため、今年こそは勇断をもって、人事院勧告どおりの給与改訂を、本社に踏み切らすべきであります。

吾々日赤新労は、過去数年間あらゆる正当な組合運動を通じて、本社の猛省を促し、斗いを続けて来たのであり、昨年は漸く公務員との差を二カ月まで縮めて参りましたが、これとて人事院勧告とは程遠いものであります。吾々の要求は所謂「人・物体制打破」といふような過激なものではなく、人事院勧告の完全実施という、極めて良識的な、当然の要求であり、本社にやる気さえあれば決して不可能なことではありません。その証拠には、吾々の調査した資料によれば、大部分の施設は「本社がよいと云えばやる」という回答を寄せています。

日赤全職員各位

「九月九日付により、右の声明文を日赤全施設に発送した。」

日本赤十字新労働組合
連合会
執行委員長 川島 茂介